

(別紙1)

自己評価及び外部評価結果
作成日

令和 5年 1月 11日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092200207		
法人名	医療法人研医会田辺中央病院		
事業所名	田辺すみれホーム		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護 認知症対応型通所介護		
所在地	和歌山県田辺市新庄町田鶴1739-22		
自己評価作成日	令和5年1月11日	評価結果市町村受理日	令和5年3月2日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	(基本情報リンク先URLを記入)
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定営利活動法人 カロア
所在地	和歌山県海南市七山964-1
訪問調査日	令和5年2月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に基づき思いやりと優しい気持ちで寄り添う事を念頭に置き、サービスを提供する努力をしています。
共用型認知症対応型通所介護を実地しているより馴染の関係を作りスムーズに入所に繋げて行くことが出来るように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

施設は自然豊かな環境にあり、敷地内にはサービス付き高齢者住宅も併設されています。グループホームに問い合わせが多く、困っている家族に対しても希望が沿えるように法人内にある施設を案内し、スムーズに入所出来るように考えられています。管理者の方を中心に理念にある思いやりとやさしい気持ちで、寄り添い支えられるように日々考えられ、利用者の方が毎日楽しく過ごせるように支援されています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が目につきやすい所に理念を掲示し、実践に繋げてもらうように働きかけている。	ホーム独自の理念をフロア内に掲示され、理念を共有されています。又、会議などでも理念を基に話し合われています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で積極的な交流はないが運営会議の報告やホームのお便りを送付し様子を伝えている。	コロナ以前から地域と関わりを持たれていたため、コロナ禍の中でも秋祭りに地域の方が訪問され獅子舞を披露してもらったりと、地域との関わりを大切にされています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が挨拶などに来られた際にまわり近所に認知症で困っている家族様などがおられたらお手伝いできればと思いますとお伝えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告は2か月に1度行っている。会議は来年度は再開できるように心がけている。	2か月に1回開催されていましたが、現在はコロナの影響で書面のみで開催になっています。ホームでの状況や行事などを報告されています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	密にはとっていないが、わからないことなどは連絡をとって聞くようにしている。	運営推進会議以外にも、ホームの事やコロナの事などを相談し、日頃から連絡を密に取り、協力関係を築くように取り組まれています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	研修を通して、してはいけない事は理解している。玄関の施錠は見守りが出来る時は解除するように心掛けている。	玄関は見守りが出来る時は施錠せず、自由に行き来出来るようになっています。又、3か月に1回内部研修を行い、周知徹底を図られています。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通して理解し、虐待に繋がることがないように普段のケアを振り返る環境作りをしている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修を通して学ぶ機会を作っているが、機会がほぼなく具体的に活用にはいたっていない。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>分かりやすいように説明する様に心掛けている。 質問や不明点を聞くように心掛けている。</p>		
10	6 <p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族様がホームへ来られた際に意見があれば聞き スタッフに周知するようにしている。外部者へ表せる機会は外部評価のアンケートや運営会議の報告書で意見を書いてもらう機会を作る様にしている。</p>	<p>面会はコロナもあり、ベランダ越しに電話で会話されています。意見や要望は電話にて聞く機会が多く、そこで出た意見や要望は運営に反映されています。</p>	
11	7 <p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>ミーティングやリーダー会議、普段の話の中で聞くように心掛けている。</p>	<p>年に2回の面談と月に1回のフロアミーティングの時に意見を聞かれています。又、個別でも意見が出やすいように話しをされ、日頃から何でも話せる関係作りがされており、意見があれば運営に反映されています。</p>	
12	<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>努めて頂いていると思います。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>そうだと思います。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>取組みをされていると思います。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	受容、共感、傾聴を意識した対応をするように心がけている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームでの様子を報告しつつ、家族様の思いや意見を会話の中から感じ取るように努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時の状況に応じた支援を心掛け職員に周知し、同じ方向性をもてるよう心掛けている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人本位の立場で考え支援するように心掛けている。		
19	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様といつでも連絡が取れるような環境を作り疎遠にならないように心掛けている。		
20	8 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	話の中で関係が途切れていないと安心してもらえるような声掛けを心掛けている。	住みなれた地域にドライブに出かけられています。又、知人の方と手紙や電話でやりとりをされ、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援されています。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関わりが難しい場合は職員が中に入りコミュニケーションを図っていくようにしている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了している家族様との関わりも継続している。外で出会った時など近況報告をするなどしている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向を第一に受入れ、困難な場合は本人本位になるよう考え、検討するように心掛けている。	入所前に家族から話しを聞いたり、入所されてからも、日常の会話の中でも意向の確認を行っています。困難な場合は本人本位になるように考えられています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新規の利用者様には特に把握するようにし、そこから話を広げたりして関係を築いていくように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの現状を把握しその時に応じた過ごし方をしてもらうように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のミーティングで対象者の支援の振り返りや支援の仕方の統一を図れるように話し合い、計画書に反映するように努めている。	6ヶ月に1回ケアプランの見直しを行い、月に1回のミーティングで対象者の支援について確認されています。又、状態の変化によってその都度話し合い、現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送りノートに記入し共有している。介護計画の見直しに反映するように心掛けていく。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状況の変化に合わせた支援の仕方を提案、周知、確認し合うよう心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	豊かな暮らしというのが難しいが安全で楽しく過ごさせていただけるように努めている。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族様が希望されるかかりつけ医の受診の対応を心掛けている。	ほとんどの方が法人内の診療所をかかりつけ医にされていますが、入所前のかかりつけ医に行かれていた方もおられます。外部の受診は基本家族の方をお願いしているが、困難な場合はスタッフが付き添いをしています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	週1回の訪問時に相談又は都度報告をし受診が必要な場合は受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	地域連携室のスタッフと密にやりとりし情報交換を行えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に一旦確認し、状況に応じて話し合いや相談を行うように努めている。	看取りは行っていますが、出来る限りの事は家族や医師と相談しながら、行っています。重度化や終末期の対応については入所時と状態に変化がある際に、家族・医師を交えて話し合わせ同意を得られています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習はコロナ禍で行えていないが事故発生時のフローを作成しわかりやすい所に掲示している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に1度計画し訓練を行っているが1度だけでは全員が身につけることが出来ないため複数回するべきだと考えているが実行できていない。	年に2回火災についての避難訓練を昼間と夜間の想定でされています。又、年に1回災害時の避難訓練も行われ、マニュアルや連絡網も作成されています。	災害時の避難訓練が少ないと感じておられ、今後は回数を増やしたり、地域の方の協力体制についても考えておられるので、今後の取り組みに期待します。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>努めてはいるが、出来ている職員と出来ていない職員がいるため、定期的に振り返ってもらっている。</p>	<p>ホーム内で研修を行ったり、普段から言葉遣いについては注意し合い、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない声掛けをされています。</p>	<p>接遇について、出来ていない部分もあり、今後の課題と考えられているので、改善出来るように期待します。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>自己決定が出来なかつたり思いを伝えられない利用者様には本人の立場になって考えるように努めている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>希望に沿っての支援は利用者様に寄っては出来ていないのではないかと思うことがある。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>散髪時や着替え時等、色々な選択肢を与えられるような支援が必要だと反省しました。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>メニュー表示をしたり、片付けはできる範囲でお願いすることがある。</p>	<p>食事は基本委託になっていますが、利用者の要望や、季節に合った食事を提供されています。又、おやつ作りもされており、利用者の希望が聞ける機会を増やされています。食事の準備などは出来る範囲で利用者の方に手伝ってもらっています。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>水分確保が難しい利用者様には声掛けの工夫や提供時間、飲み物の種類を変えるなどの対応をしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>口腔内の清潔保持は重要であることから無理強いしないような声掛けを行い支援している。</p>		

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンはつかめていても自立に向けた支援は大きな課題でもある。	介護記録で排泄パターンを把握されています。本人のペースに合わせた介護をされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	理解は出来ているため、日々の運動などにもっと取り組んでいく努力が必要だとおもう。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の希望に応じた支援は出来ていないことから見直していくことが必要だと思ふ。	基本週に2回入浴されていますが、その方の希望にも浴えるようになっていいます。入浴が楽しめるようにゆず風呂など工夫され、入浴が楽しめる支援をされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心身の状況に応じて居室やソファで休んでいただく。夜はそれぞれの居室の照明の調節をする。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の理解が必要だと認識し、変化の確認に意識を向けるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る範囲で役割をもってもらい、楽しみを模索しながら支援をしている。		

49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の希望に沿っては出来ていないが気候のいい時にドライブに出かけたりしている。	日常的に敷地内で日光浴をされたり、気候のいい時はドライブに出かけられています。コロナ前は買い物にも行かれていました。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は預かっているので、可能な範囲で本人に所持、使えるように支援しているように努める。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	面会が出来ない事から電話で話してもらえ環境を作っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の温度、照明は調整し、季節感を感じてもらえる飾りや掲示をしている。	ホールは季節に合った飾りつけを飾られ室内でも四季を感じられるようになっていきます。又、食事を作る音や匂いが感じられ家庭的な雰囲気作りがされています。照明の色は時間によって調整され過ぎやすく考えられています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状況をみてその場に合った空間をつくるように努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や使い慣れた寝具や物を置くようにしている。	持ち込みの制限は無く、仏壇や馴染みの物、使い慣れた物を、持って来られ、本人さんが居心地よく過ごせる空間になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を第一に考え、出来る事、わかることを今以上に活かしていけるよう努めていく。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない